

社長所感（12月）

今年は、ことのほか冬の訪れが早いようで、東京では11月24日に初雪が降り、少し積りましたが、東京の11月の積雪は、観測史上、初めての出来事だそうです。

このほか、今年は、奇妙な気象現象が続発しました。

4月、地盤のプレートが安定しているため、地震とは無縁と思われていた九州の熊本が、震度7の激震に襲われました。

8月、台風は無縁と思われていた北海道に、3度も台風が上陸しました。

また、夏が長かったのも今年の特徴で、東京でも、最高気温が35度以上の猛暑日が3日、最高気温が30度以上の真夏日が57日と、大変に暑い夏でした。

夏が長く、冬の訪れが早かった分、秋が短く、同様に、春も短かったというのも、今年の特徴でした。

何かが妙にずれ始めているように思われます。

この「ズレ」の感覚（通常、常識的に見てありえないと思われていた事象が発生すること）は、気象現象ばかりでなく、人間の営みにも見られるようになって来ました。

例えば、東京都の築地市場の豊洲への移転問題、2020東京五輪の競技場建設問題などで、その意思決定過程の不明朗さに、あの首都、東京都のガバナンスは…？とあきれた方も多かったのではと思われます。

また、11月8日には、福岡市の博多駅前の道路が、大きく陥没しました。

私ごとになりますが、博多出張の際の定宿のホテルが陥没現場のすぐ近くで、テレビなどに何度も写った角のコンビニ（土台の土が抉られ、基礎杭がむき出しになった映像が印象的でした）に、出張期間中は毎日、お茶やおにぎり、携帯用の小物を買に行っていましたので、この陥没の時期によっては…と、身につまされる思いでした。

さらに、視野を広げて世界的に見ても、予想外のことが、次々と起こっています。

- ・イギリスのEU離脱の可否を問う国民投票での離脱賛成派の勝利とそれを予測できなかった政治リーダーたちと著名マスコミ
- ・アメリカの大統領選挙で暴言王のトランプさんがヒラリーさんに勝った「トランプ・ショック」とそのトランプ勝利を予測できなかったアメリカの著名マスコミと研究機関
- ・韓国の朴大統領のあきれた政権の私物化と弾劾問題 などの例です。

これらの出来事のベースには、現状に対する不満と将来への不安があると思われていますが、結果として、あの国に限って、あの都市に限って、あのマスコミに限って、そんなことが起る筈がないと思われていた、その信頼が、次々と裏切られるようになっていきます。

一陽来復、来年は、気象現象でも人間の営みでも、信頼と実績が大きくずれない年になってもらいたいものと思っています。

少し、早いですが、どうぞ良いお年を！